

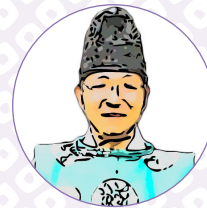
ガラシャについて…味土野について… ～地元の人のお話から～



横島 昇氏

翻訳家「ガラシャの祈り」著者
(弥栄町在住)

「私をして正道をしらしめしは
久しく祈願したる天主の洪恩によるものにて候」
とは、さるイエズス会士宛の玉子の手紙の
中に見える言葉ですが、味土野での絶望が
彼女をキリスト教へと向かわせる契機と
なりました。



西川 康一氏

網野神社 宮司

溝谷神社（延喜式内社）には、
明智光秀公の奉納された石灯籠があります。
社記には「光秀公が神前に天下統一の祈願をされ、
志が成就した暁には、もう片方の灯籠も
奉納するつもりである」といって残された。」とあります。



小野 泰昭氏

与謝野町文化財
保護委員会 会長

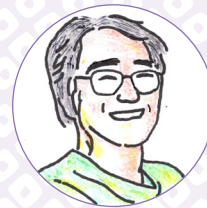
屋根の葺替えや道づくり、さらに田植え、稲刈りと
過酷な日常を助け合い、そして心の拠り所としての
盆踊りや多彩な年中行事に参加することなど、
互いに睦まじく暮らしてきたのが味土野の人々です。
ここは支え合いといたわり、そしてぬくもりの里
なのです。



木下 肇さん

大正生まれ 味土野出身
(弥栄町在住)

うちのおっかあは話し好きで世間話など
よく聞きました。
私がまだ若い頃、朝食の用意をしながら
「今日は大岩のところの畑に行く、あの大岩の裏側で
玉夫人がお産をしたげだえ（したようだ）」
と言った言葉が今でも記憶に残る。



大益 牧雄さん

木工ろくろ職人
(味土野在住)

味土野に暮らして 30 数年。
木工轆轤（ろくろ）をしています。
昔はいなかった猪や鹿に悩まされ、
冬の 2m の雪の中でも何とか生きています。
りっぱな廃村の碑がありますが、
まだ味土野も私も生きています。



槇野 智子さん (味土野在住)

命は一つだけ。人生は一回きり。
自分で選んだと思っても、実は選ばれている。
味土野の自然の中では、生と死が美しく淡々と
繰り返されています。
いつの日か私もそれに一致し、同化して、
空の高みに届くようにここに選ばれました。



ガラシャが味土野で詠んだといわれる歌

幽閑中、恋しい人と逢っていると
思っていたのは、それは夢の中だった、
という切ない歌

逢うさみで
残らぬにこそ
重なる袖のうつり香の
夢と知りぬる

秀吉の許しを得て幽閑が解かれ、
宮津へ帰る時の喜びの歌

身を隠す
花なき峰に
里は吉野の奥ながら
呼子鳥なく

～ガラシャ隠棲地伝承について～

本能寺の変の後、明智の娘、玉が姿を消した、その先が丹後の山中味土野であったことが明らかにされたのは、1688 年の『明智軍記』。1582 年の本能寺の変の年から数えて実に 100 年後のこと。また、細川家が公式に、「丹波之内中三戸野」と認めたのは、さらに 100 年たった 1788 年。匿ったものも同罪。味土野衆に累が及ぶのを恐れてのことかもしれません。

しかし、どんな権力も、人の口まで封じることには出来ません。野間、世屋の村々には、織田方からも明智方からもねらわれる玉を丹後の領主忠興の奥方として、食料を定期的に送るなど大切に守り通したことが、地元下世屋城主の家系の長男にのみ語り継がれていたということです。また、その口伝には、警護の武士の中に、若い鉄砲の名手がいたことを伝える話のあることを誰が知るでしょう。稲富一夢齋がその人。今は橋立智恩寺に眠ります。玉も、不安の中にありながら、忠興を信じ、味土野の子どもたちに字を教えたり、流行病の時には厄よけの札を作ったり、里に溶け込んで暮らしたことがしのべられます。昭和 59 年建立のふるさと味土野碑には里を離れた 60 筆もの名前が刻まれています。その先祖の味土野衆によって、ガラシャは守り抜かれたのです。

主要スポット

①ガラシャ城跡（女城跡）

本能寺の変ののち、山深い味土野で 1 年 8 ヶ月余りの
隠棲生活を送ったと伝える屋敷跡。

②ガラシャの東屋（休憩所）

令和元年に宮津高校生が製作し設置され、
訪れる旅人の心休まる休憩所。

③ガラシャの古井戸

ガラシャが使っていただろうと思われる井戸、昭和 2 年の
丹後大震災で枯渇。

④ガラシャの化粧水場

近くにガラシャが化粧をする時に使用していたと地元で
伝承の残る「化粧池」の近くを水源とする超軟水が原水。
(滅菌を行っていない原水ですので、生水のままの飲用はご遠慮ください。)

⑤味土野ガラシャ大滝

展望所が整備され、駐車場を 150m ほど下り
40m 階段を降りれば落差 50m の瀑布がむかえてくれる。

⑥味土野ガラシャの里駐車場

味土野ガラシャ大滝や周辺の散策に便利。

⑦男城跡

ガラシャを警護する武士がいたと
伝える城跡。

⑧金剛童子山

地元では行者山とも言われ、修行のための「のぞき岩」
がある。西側に双眼鏡やデッキのある展望所がある。
(登山道より徒歩約 1 時間で頂上、休憩をはさんで周遊は約 3 時間)

⑨大岩

この岩陰でガラシャが次男「興秋」を出産したと
地元で言い伝えが残る。

⑩ガラシャ荘

トイレがあり、有料で休憩や宿泊も可能。

⑪味土野のガラシャ古道（上級者向け）

尾根伝いの山道、男城跡を通り味土野に入る。

⑫洞養寺

金剛童子山を開山したと
言われる役小角が祀られている。

⑬溝谷神社

織田信長が社殿を再興し、家臣の明智光秀が寄進したと
言い伝えのある石灯籠が今でも境内に佇んでいる。

⑭菊岡神社

政略の犠牲となった細川忠興の妹で、峰山の吉原城の
帰りに自ら命を落とした菊を祀った神社と云われている。

⑮内山ブナ林

内山周辺には府内最大級のブナ林があり、五十河へは歩いて行ける。

味土野へ行くコース紹介

※野間基幹集落センター（P・WC 有り）から味土野へは約 5 km

- 車：味土野までは離合困難な狭い府道が続く。
- 徒歩：上り約 1 時間半、下り約 1 時間、自然を愛でながらの散策は魅力的。(途中から味土野のガラシャ古道の山道経由なら約 2 時間)
- 味土野のガラシャ古道（尾根道）通って：途中の小杉別れまで車で行きそこから山道を徒歩で男城跡経由（約 1.5 キロ、約 50 分）で味土野へ入る。(三差路の橋上や路肩に駐車場可) 帰りは味土野のガラシャ大滝や大岩のある府道（655 号線）を下る。